



## 6兆円の借金を減らす努力をしているように見せる涙ぐましい努力

都が抱える借金をご存知ない？それはそうでございましょう。この借金額の6兆円も、貯上総額226億円もあるうるさい議員（上田）が指摘しないと、都は議会にすら数字を出さないのですから。そこで、予算審査の際に資料請求したのが次の表です。

### ★都債残高グラフ★



この「減額してるんだ！」感を表そうという下向きの矢印に、東京都財務局の涙ぐましい努力の跡と、後ろめたさを感じずにはいられません。って全然返せてないじゃん!!!

### 【総括】入るを量りて出するを為す！

家計が火の車の都民が少なからずいる中で、公務員給与を上げるよりまずは、将来世代へツケをまわさないためにも226億円でさっさと借金を返しなさい！

## ●都庁最後の天下りポスト 外務省御用達!? 謎の役職「儀典長」が…

皆さん「儀典長」ってご存じでしたか？都によれば「都市外交に関する事務につき知事を補佐、外国からの賓客による知事表敬等において、国際的な儀礼に即した対応

### 【上田令子活動報告】

8月

### activities report

#### 災害薬事支援を学ぶ



#### ママ、がん検診を受けて！

20～30代に急増中の子宮頸がんは、毎日40人がガン宣告され10人が命を落とす恐ろしい病気。受診率向上に向け乳幼児がいる母親へ医療情報提供と都への要望ヒアリングをしました。

H26

H26

10月



#### ～世のため都のため人のため。

#### 質問女王の本領発揮

知事お膝元の政策企画局はじめ、人事・総務と6局を所掌する総務委員会はネクタの宝庫♪事務事業質疑は全105問に。コレを定点観測材料に活かすノダ。

H26

11月

#### あいも変わらず東奔西走！～



H27

1月

#### to be continued

#### 感極まった成人式

マタハラ退職から20年。今のハタチが政治・行政に求める声を直に聴くことができました。前途洋洋たる未来を願い将来世代への負担削減を誓う。



をする」お役目とのこと。で、この「儀典長」。5代続けて外務省総領事級が都庁に来て、都庁幹部職トップクラス並みの給与をゲット。その後は大使等に昇進していることが上田調査で判明しました。東京都最後の国からの天下りポストの実態を初めて議員が明らかにし、「外資系企業などで活躍した民間人を公募するか、東京都職員を育成し、抜擢すべし」と予算委・本会議にて要請したわけです。この指摘に泡食った？舛添要一東京都知事は、平成26年7月に知事本局を政策企画局に組織改編。儀典長を「外務長」に名称変更して外務省局長級を採用するだけでなく、「都市外交担当部長」を新設しここにも外務省からの出向者を配置。都市外交予算が大幅拡充されるとともに天下りポストもオマケで1名追加とあいなりました。

【総括】メイド・イン都庁の人材育成を！  
お飾りの儀典係から即戦力の外交戦略家を登用したいという知事の気持はわからないでもないですが、昨年末策定の『東京都都市外交戦略』でも「都庁職員をグローバル人材へ育成」と明言しています。外から連れて來るのはなく中から育てることで都庁全体の国際感覚が培われることから、メイド・イン都庁の外務長＆部長誕生を強く求めます！

## ●異動命令無効判決 あの「えどがわ環境財団」 人事問題で敗訴へ

江戸川区内の公園管理等を区の補助金約30億円（税金）で委託されている「えどがわ環境財団」が平成26年9月に「不当労働行為救済申立事件」（江戸川区自然動物園の飼育員2名を突如事務職にした人事異動への申立）にて東京都労働委員会より、命令書が交付されるという異例の事態が発生。続く11月には東京地裁が区の異動命令は無効であると判断を言い渡し司直の鉄槌まで下ることに。江戸川区元土木部長が理事長（年収約800万円）へ、元区議会議員が専務理事（年収約400万円）に天下り的人事でおさまっていることから、区議時代より今日までシツコク定点観測してきたものの、まさか、都所管の労働委員会が

関わる人事問題まで波及するとは…。なぜそこまで追及すると失笑を買うこともありましたが、チェック機能としての議員と議会の存在意義を改めて再認識しました。

【総括】バトルは8年に！  
己の人事も收入も結果的に有利に運びながら、無辜なる現場の職員を苦しめるとは言語道断！天下り人事の歪を徹底的に質し、長期にわたって監視して根絶へ！

## ●学校災害対策『学校保健安全法26条』―― 大川小の悲劇を繰り返すな！ 教育長の言質を取る

東日本大震災による津波災害で、釜石東中では子どもたちが主体的に動き、全員が助かる奇跡を起こした一方で、石巻市立大川小の悲劇は、教育現場の誤った判断により74人の子どもたちの命が奪われるという戦後最悪の学校災害を引き起こしました。学校保健安全法26条では、学校設置者に「災害等により児童生徒等に生ずる危険を防止」することを義務付けています。この通りに対処していたなら、大川小の子どもたちは裏山に逃げられたかもしれません。子どもの命にとって大変重要な法律であるのに、教育長が学校災害対策についてこの法律に基づくと本会議一般質問でなかなか明言しないので、再質問にて畳み掛け「26条に則す」という言質を取りました。

【総括】法律は現場での運用が大事！  
これにて、東京都内のすべての学校に、この法律が堂々と適用されることとなります。議会質問は、疑義を晴らすということも大事ですが、現行法を現場で実施しているか確認を取り緊張感を持って頂くという役割もあります。ぜひ有事の際に、学校側との協議の根拠として「都教委も言っているのですから学校保健安全法に則って下さい」等、子どもの命を守るために大いにご活用ください。

## ●西東京市知的障がい者施設「たんぽぽ」 虐待事件未だ解決せず

平成25年6月に西東京市の知的障がい者入所施設「た

んぽぽ」における虐待事件が明らかに。上田の議会質問も新聞報道となり耳目を集めたところで、都では新規利用者の受け入れ停止等厳正な処分を下すも、直後に利用者の転倒骨折事故が発生。さらに「サービス推進費」も停止し、再三再四にわたる指導検査も実施しているにも関わらず、今なお信じがたいことに、改善に向けた取組が不十分な状況です。平成14年東京都社会福祉協議会より厳重注意がなされ、平成24年には、公益通報もあってもなお都は看過してきた上に、今もって改善が図られてないとは、施行後1年以上経った障がい者虐待防止法に抵触していると言わざるを得ません。

【総括】福祉は『施設』より『人』なり！  
今後、さらなる処分や理事長等役員の解職勧告を行う段階に突入。都はなお一層の監督責任を徹底して厳しく果たすべき！

## ●待機児童解消に向けて 東京都認証保育所への 補助金格差是正へ！

「待機児童を4年以内に解消する」と公約に掲げた知事のもと、平成27年度予算は子育て支援事業に35億円大幅増へ。その中で注目して頂きたいのは、東京都認証保育所（NPO・株式会社など民間が多く参入）と認可私立保育園（社会福祉法人）との格差は正のできる、使い勝手の良い「保育サービス推進事業」予算がついたところ。これにて、障がい児を受け入れる熱心な認証保育所にとって運営が大いに助かることになります。子ども子育て支援新制度が4月から導入されるにあたり、都の独自事業である認証保育所の位置づけが曖昧である点を上田が指摘してきものを受けたものとなります。

【総括】江戸川区のママ・パパは大変なノダ！  
次は23区で唯一認証保育所利用者補助を行っていない江戸川区の保護者のために東京都による利用者補助の推進を促してまいります！